

interview

M
さん製造G
保全・改善班

1983年（昭和58年）に新入社員として名興発條株式会社に入社。これまで品質保証部門や製造現場、技術チームなどさまざまな部門に在籍し、技術を磨きながら会社に貢献してきた。2024年10月に定年退職して、現在は嘱託社員として活躍中。今回は、これまで印象に残っている仕事や、職務への思いについて伺った。

前代未間のチャレンジ

長年の経験の中で一番印象に残っているのは、入社5年目に担当した仕事。製造部門に異動したばかりで、生産ラインの改善を任せられた。当時は、ウサギ追い方式（1つの作業が滞り次の工程に影響が出ないように、全プロセスがウサギを追いかけるように

次々と動く方式）で運営していた。しかし、より効率的に作業を進めるために大幅に変更することを決断する。

これまで2つだった生産ラインを大胆に1つにして、工程を再配置。従来のウサギ追い方式を廃止し、直線が流れるように変えていった。さらに、作業ごとに仕事量のバランスを調整し、メンバー全員が無駄のない動きができる環境を整えていく。その結果、17秒かかっていた作業時間が、約11秒に短縮。生産効率は、200%もアップしたのだ。

ライン変更は、大規模で勇気のいる取り組みのため、これまで誰も挑戦しなかったのだが、入社5年目の若手社員が達成。もっとも、取り組みがうまくいったのは協力してくれた仲間たちのおかげだと思っている。「仕事は一人ではできない」という考え



▲作業風景

に基づき、自身のアイデアや努力によって大きな成果が出たように見える場合でも、常に周囲への感謝を忘れないことを心がけているのだ。

「これでよし」を疑う！ 仕事の質を高める思考

18歳で入社し、定年退職まで勤め上げてきた。背景にあるのは、「会社の繁栄が第一」という思い。そのような中でとくに注力してきたのが、業務改善だ。

転機となったのは、30代で改善室の立ち上げメンバーに選出されたこと。当時、代表取締役社長を務めていた前社長（糟谷 良雄）の呼びかけによって始まった、大きなプロジェクトだった。最初のミッションは、アイシン精機株式会社（現株式会社アイシン）の研修に約3か月間参加し、トヨタ生産方式を習得すること。とても濃密な時間を過ごし、この経験はその後の業務にも大きな影響を与えたという。

「改善活動において大切なのは、『現状のままで良いのか』と常に問い続ける姿勢だと考えています。疑問をもって作業内容や工程を見直すことで、より良い方法が見つかるのではないのでしょうか。」

みんなのために動ける人

難しいミッションにも積極的に取り組むモチベーションは、誰かの役に立ちたいという思いから生ま

れている。小学校の卒業文集には、「ウルトラマンになりたい」という夢を書いた。キャラクターに憧れていたわけではなく、ウルトラマンのように人々を助けたいとの思いからだ。この考え方は大人になってからも変わっておらず、組織や周囲の人々に貢献したいという気持ちが、仕事への活力になっている。

また、前向きにチャレンジできたのは、会社や上司が後押ししてくれたことも大きな要因だと感じている。社員のアイデアを取り入れる度量や、チャレンジを歓迎する社風があったからこそ、これまで続けてこられたのだ。

心身健やかに、経験を次代へ繋ぐ

定年退職を迎え嘱託社員として勤務している現在は、体調管理に気をつけて日々生活をしている。できれば65歳まで働きたいと考えており、健康で長生きするのが今の目標だ。在職中は、これまで培ったスキルを若手社員へ伝えていき、ノウハウを継承したいと考えている。

最後に、「現状に満足せず、常に改良する意識をもって業務に取り組んでほしいと思っています。わからないことがあったら、いつでもご質問ください」と、若手社員へメッセージを送った。名興発條での充実した日々感謝しつつ、今日も真剣な眼差しで現場を見つめている。



▲若かり頃